

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

大学院 電気通信学研究科 博士前期課程 システム工学専攻		
氏 名	行光 芽衣子	学籍番号 0635034
論 文 題 目	2色配色における空間分割の影響	
<p>要 旨</p> <p>私たちは「見る」ことによって様々な外界の情報を得ている。眼に触れるものの中には、自然物、人工物を問わず色彩、形、大きさ、距離、傾きなど様々な性質を知覚する。色彩はその中でも最初に認識すると言われており、人間の生活にとって第一義的に重要な要素である。ただ、日常生活において色は単色で存在することは少なく、異なる2色以上の色が組み合わさった配色環境において私たちの目を刺激する。また、配色環境と一言で言っても、構成する色の他にも、色の数、面積比、色の配置、形の関係、表現される感情的な意味などたくさんの要素が含まれ、総合的に評価されている。この様な、配色環境を構成する要素の研究は昔からされている。しかし、それらの研究は、評価対象の面積比が違うものの空間的に上下、左右の2分割を試料としている。しかし、現実の視対象は複数の色彩領域から構成されているため、多分割を試料として用いた2色配色と色彩感情の関係を明らかにする必要がある。</p> <p>そこで、本研究では、2色配色における空間構成に注目し、配色が人間に与える心理的影響に焦点をあて、多分割を試料として用いた場合の2色配色と色彩感情の関係について調べることを目的とした。また、提示する際、意味を持った形という概念を加えた場合の影響について調べるため、本研究では、意味ある形として着るという目的を持ったTシャツを対象とし、空間構成としてのボーダー柄が感性評価にどのように影響するかについて調べた。</p> <p>その結果、まず基本形態として正方形で提示した場合、空間分割は感性評価に大きくは影響しなかった。次に、着るという目的を持ったTシャツを形態として提示した場合も空間分割としてのボーダー柄は殆ど感性評価に影響はなかった。また、このTシャツを形として取り上げた際、「気持ちの良さ」「気持ちの明るさ」「強さ」の3因子が存在するようで、これらを基軸として被験者は評価していることがわかった。</p> <p>以上より、多分割を試料として用いた2色配色の感性評価を行う際、その分割条件は目的がある「形」を形態とした場合でも評価にあまり影響はなく、人間は配色の構成によって評価していると考えられる。</p>		